



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・算数では、少人数授業を積極的に活用し、個に応じた授業の工夫を行う。 ・問題解決学習や体験的な学習を取り入れ、ペア学習等の工夫により、児童全員が主体的な学びをできるようにする。 ・「10の約束」「宿題5の約束」「3校合同生活スタンダード」を徹底し、基本的な学習習慣を身に付けさせる。 ・「土曜スクール」「平日補習」で基礎学力の定着と学力の向上を目指す。 ・東京ベーシック・ドリルを活用して、基礎内容の定着状況を測るとともに、その定着を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝学習」の時間を活用し、学校支援地域本部と協力して本に親しむ機会を設け、読書力の向上を図る。 ・放課後の「フリータイム」を活用し個別学習を行う。 ・外国語教育指導員による授業に加え、担任による授業を行うことにより、年間3.5時間の外国語の授業を実施する。 ・会議をまとめることにより、高学年において6時間授業日を増やした。一方で、4時間授業になる日のフリータイムを活用し、補習時間を確保した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大田区 ICT 活用推進モデル校として、導入された ICT 機器の活用推進をし、教員の授業力向上を目指すとともに、活用実践事例を蓄積する。 ・「ICTを活用し、進んで伝え合いかわりを深める児童を育成する指導法の工夫」をテーマに、多教科における ICT を活用した指導法を研究する。 ・主任・主幹教諭による校内OJTを、年間を通して計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を基に観点別評価規準、評価計画を作成し、活用する。 ・指導の記録に基づき指導計画、評価計画の改善を図る。 ・<u>区・学習効果測定を基に学習カルテを児童自身が作り、学習の振り返りができるようにする。</u> ・<u>東京BD診断テストの結果を実態把握に活用する。</u> ・夏季三者面談において学習カウンセリングを行い、2学期以降の学習の改善に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「宿題5の約束」の協力を求め、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・各行事後の保護者アンケートを行事・授業の改善に繋げる。 ・学校支援地域本部「スクールサポート北糀谷」と連携を取り、わくわくスクールや総合的な学習の時間・生活科など、様々な教育活動の場面において保護者・地域の人材や地域の様子を生かした教育活動の推進をする。 ・地域教育連絡協議会の実施、保護者による外部評価を実施し、教育活動の改善に生かす。